

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 家庭 科目 家庭総合

教科： 家庭 科目： 家庭総合

単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1組：梶 ）（2組：梶 ）（3組：梶 ）（4組：山田 ）（5組：梶 ）（6組：梶 ）（7組：梶 ）（8組：梶 ）

使用教科書： 東京書籍「家庭総合 自立・共生・創造」

教科 家庭

の目標：

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的知識及び技能を身に付けていく。

【知識及び技能】

理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善

【思考力、判断力、表現力等】

考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実に資する実践的な態度を養う。

科目 家庭総合

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けていく。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けていく。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践する。	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる 第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・青年期の課題である自立について理解を深めている。 ・家族・家庭の機能と家族関係について理解している。 ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察する。・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭及び社会について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとする			○	○	10
	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもとの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもとの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題に	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	・青年期の課題である自立について理解を深めている。 ・親の役割と保育について理解を深めている。 ・乳幼児期の心身の発達と生活について理解を深めている。 ・子供の遊びと文化について理解を深めている。 ・子育て支援について理解を深めている。 ・子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めている。 ・子供の健やかな発達を支えるために、子供との適切な関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供との関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分					10
	・超高齢社会の背景を理解する。・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。・これからの超高齢社会の課題を理解する。・自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考えて実践しようとする。・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構築	第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 高齢者の自立を支える 4 これからの超高齢社会 第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方3 共に生きる 期末考査	・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。・高齢期の心身の特徴について理解を深めている。・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深めている。 ・高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けている。 ・高齢者福祉について理解を深めている。 ・高齢者の自立生活を支えるために、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢者との関わりと福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実に資する実践的な態度を養う。			○	○	12

2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 ・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。 ・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。 	<p>第9章経済生活を営む</p> <p>4生涯の経済生活を見通す</p> <p>5家計をマネジメントする</p> <p>第8章</p> <p>住生活をつくる</p> <p>1住生活の変遷と住居の機能</p> <p>2安全で快適な住生活の計画</p> <p>3住生活の文化と知恵</p> <p>4これからの住生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家計の構造について理解している。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画について理解を深めている。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画について理解を深めている。 ・リスク管理の考え方について理解を深めているとともに、情報の収集・整理が適切にできる。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・主体的に住生活を営むことができるよう防災などの安全に配慮した住生活とまちづくりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。 	○	○	○	24
3 学 期	問題演習						14
							合計 70